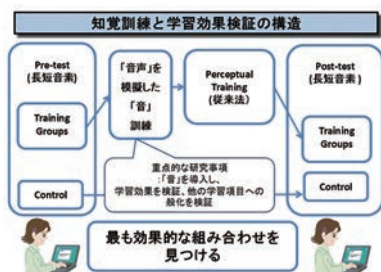


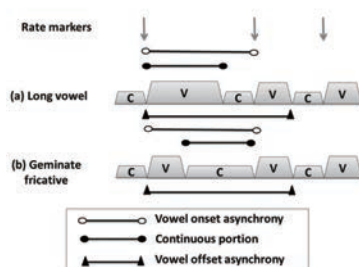
音の感性を活かした外国語の学習支援

近年、多言語を背景とする日本語学習者が増えつつあります。今後、短期、長期滞在の外国語使用者も増えていくことだと予想されます。その中で、本研究は、多言語を背景とする日本語学習者を対象とした効果的な日本語音声学習を支援するシステムを開発、プラットフォームとして提案を目指し、実証的研究を行っています。特に、本研究は、言語を学ぶ際に最も気になる点とも言える「その言語のらいさ」に注目しました。「自然な日本語」はとても感覚的で、聞き手によって評価がずれる場合が多く、日本語を学ぶ学習者にとっては、つかみどころがなく、学習そのものが難しいです。そこで、本研究では、人が実際にやっている知覚処理を模擬した指標に基づいた評価を用いることで、言語らしさをより客観的に説明し、言語支援につなげたいと思っています。これらの研究は、今後、多様化している社会における自律した言語学習アプリ開発の基礎的な研究となると思います。

「音声」を模擬した「音」の練習の導入
および効果検証



人が実際行っている知覚処理に基づき
音声の特徴を把握

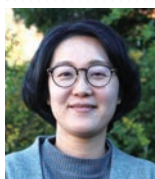


産業界へのアピールポイント

- 日本語学習者の母語によらず共通した知覚練習アプリの開発
- 多様な日本語学習者に対しても感覚的に学べることばの練習方法の検討

実用化例・応用事例・活用例

- 外国人学習者のための知覚練習アプリ開発
- 多言語を背景とした外国人日本語学習者の学習支援



鮮于 媚 (ソヌ ミ) 准教授
大学院人文社会科学部研究科

【最近の研究テーマ】

- 外国人住民の防災教育および言語支援
- 自律学習を支援する教育実践方法
- 多言語話者のあいづち、感情表現の音声の特徴